

物事はすべて解釈次第

この、物事はすべて解釈次第ということですが簡単にいうと、「現象はひとつだが、解釈は如何ようにも取れます」ということです。

例えば映画で、その観客が100人いるとします。ただ、この映画を見終わった後に感想を聞くと、自分が観て良かったシーンは、友人とも他の人とも同じシーンということはないのです。必ず、印象に残っている部分っていうのは他人と違いますし、感動した部分も違うものです。

ただ、この映画の作り手は1つの思いがあって作っています。これが、見ている人からすれば、解釈がいっぱいあるので、その人の解釈次第で、そのメッセージっていうのは全く違ったものになっているのです。

例えば何か出来事があった。それで、

- ・その出来事をどう捉えるか
- ・そしてその出来事の捉え方によって、成功する人もいれば、失敗する人も、動けなくなってしまう人もいるということなのです。

穴に足を取られる人

目の前の地面に穴があるとします。そして、前から人が歩いてきました、と。その穴に蹴つまずく人がいるとします。その時それを見てどう思うかということです。

- ① バカだなんて思う人
 - ② 危ないな、避けようって思う人
 - ③ 他の人が蹴つまずいたら危ないなって、そこにつまづきそうな老人が歩いてきたら、さっさと行って教えてあげている人
- というふうに、思考が3種類に分かれます。

結局、穴があって足を引っ搔けた、っていう事実の一つです。ただ、その解釈次第で、次にどう生かすかっていうのはその人、本人次第です。

【①の人】足を引っ搔けてバカだなーって思う人は、もう他人事なのです。他人の目で見、批判しか思い付かない思考の人です。

【②の人】穴があるな、危ないな、避けよう、って思う人は、自分事に置き換える力を持っています。要は、他人の出来事を見て、あ、こんなの自分だったら、こうしようとか、自分にはこうやって役立てよう、って自分事に置き換える力を持っているということです。

【③の人】老人が歩いてきてその前にいって教えてあげる、っていうのは、その受け取った情報から、次に起こりうることを予想・予測して、他にも役立てる力を持っています。

穴に蹴つまずく人生

出来事は歩いてきた人がいて、その人が足を引っ搔けたという1つの出来事ですけれど、解釈次第で全くその後の人生が変わってくる、っていうことでもあるのです。

で、ほとんどの人がこの1番目の人と同じように物事を批判的な目で見ている、つまり他人事なのです。だから、何かが起きたとしても、全てスルーしちゃうのです。そしてこ

の態度を繰り返している限り、いつもスルーの見方捉え方で、いつまでもゼロから抜け出すことが出来ない人生を送るのです。

結果を出す人というのは、悪い結果が出たら必ずその原因を追究して、そのプロセスを改善して、最後には成功に導く人なのです。だから、「まず行動しましょう、行動したら必ず、結果が出るのだから、考えるのはそれからにしましょう」となります。この原因とそれを結ぶプロセスつまり行動があって、結果が導かれる、というのは真理なのです。

ましてや他人の出した悪い結果に、「ああ、バカだな」って見て、自分はまったく手を出さない人に成功なんて訪れないのです。ほんとうに穴につまずいたのは、ただ見ているだけで何もしない人です。

答えを知りたがる人

そしてこれも、多くの人の態度としてあるのですが、答えをやたらと知りたがる人がいます。要するに、大きな成果を出した人に、「それってどうやったのですか」って聞いて廻る人がいるのです。言っておきますが、答えを知ってそれを参考にしたところで、同じような結果を作り出すことなんて絶対にできないのです。

成功するプロセスは一つじゃないのです。色んなものが掛け合わさって、ようやく、ピタッとはまった瞬間に、成果が生まれるのであって、結果が出たそのやり方を聞いたところで、同じような成果が出るはずはないのです。同じ人がやってもタイミングという要素が1つ欠けるだけで、反応は下がってしまうのです。なので、この答えだけを知っても成功することなどないのです。

ビジネス本で得た知識、ましてやネットで見ることのできる情報なんて役に立たないのです。あたり前です。成功でも失敗でも、自分の経験から得られた知識が宝物なのです。

セールスをして同じです。1人目はあなたの熱意にほだされて客になるのです。でも、同じ手は2人目からは通用しません。それでも、もし2人目を得ることができたら、それは偶然です。3人目からが本番です。

成果を上げる人

それでも何とかその壁を乗り越えて10人ゲットできたら、あなたはその道のプロとしてやっていけます。何故ならあなたはきっと、情報を知識に、知識を知恵に変えることに成功したのです。でなければ、10人の客を得ることはできません。

なので、色んな掛け合わせを実際にやってみて、何の要素が足りなかったのかを突き止める。それじゃあこの要素を埋めてみよう、っていうように改善を繰り返すことによってはじめて、成果が上がってくるようになります。

- ・この物事っていうのは色んな見方があるという前提に立つこと
- ・いま自分はそれをどう捉えるか、というベースを決めること
- ・離れて見たり、逆の視点から見たりして、これは何に使えるのかを考えること

上手くいかない人は要するに、失敗の粗探しに終始してしまうのです。何で上手くいかなかったのか。誰がいけなかったのか。そればかりに目が行って、けっきょく投げ出してしまうのです。

だから、「なんで？」という言葉を使うのです。

起きてしまった物事は元に戻ることはないのです。これからどうするかしかなないので。だったら、今のある現象をベースに考えて、「どうしたら上手くいくのか」っていう風に言葉を変えるだけで、未来が見えてきます。未来を引き寄せるのです。

ですからこれから使う言葉を、「どうしたら上手くいくのかな？」って、自分に質問を投げかけるのです。そうすると、頭はその解決策、未来への解決策を見出してくれます。
※3月の勉強会での『魔法の言葉』を思い出して！

遠野物語 白い鹿の話

遠野随一の鉄砲名人・嘉兵衛爺が六角牛山へ猟に入ったとき、見たことのない白い鹿に遭遇した
白鹿は神だと云われているが、それを恐れていては鉄砲撃ちではないと思い、狙い定めて撃った。が、命中しても鹿は倒れない
そこで、秘中の魔よけの弾を取り出し、願をかけて撃った。
それでも、鹿は倒れない。
近寄ってみるとそれは白い石だった

物事は、ほんとうは1つしかないのです。しかしそれはたくさん、いろんな解釈ができます。そして、その解釈っていうのは真実ではなく、自分で勝手に解釈しているってことなのです。

1. 失敗した時の質問の仕方、自分への質問の仕方も選ぶことができる
2. 嘉兵衛爺みたいな緊急の視点、焦燥に陥った時にどういった視点を向けるか、光を当てるかっていうことによって、全く未来が変わってくる
3. どういう風に捉えるか、っていうのは、もう慣れるしかない、練習するしかない

練習すればどんどんどんどんポジティブに考えることが出来るので、なので、今いえるのは、失敗を積み重ねてくださいということです。これが、すごくポイントになってきます。

ちなみに、遠野の嘉兵衛爺は、白鹿を狙ったことを後悔して鉄砲打ちをやめたのかというと、そうではありません。彼はそれ以降も死ぬまで猟師であり続け、人々に尊敬される存在だったといえます。

名人の思いには遠く及びませんが、成功の原理はただ一つです。

それは、あきらめないことです。失敗をベースに何度でも再起することです。

この白い鹿の話が残っているというのはおそらく、爺が笑い話として後年、若い衆に話して聞かせたからでしょう。

以上